

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	双葉保育園
補職名・氏名	園長 水野 恵美子

組織目標兼管理職個人目標			達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. いきいき運動遊びの充実 ①園の環境に合わせ、遊びや教材・環境等を工夫し、いきいき運動遊びを毎日実施 ②巧みに動く体作りに向けた検討を職員間で実施し、共通理解を醸成 ③体力測定を実施（2回）し、成果を確認（3月） ④保護者へ健康・体力づくりの情報提供 2. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた保育の充実 ①年齢に即した育てたい力を職員間で共通理解 ②夢中になって遊べる環境を工夫し、友達とのかかわりや遊びを工夫する力を増進	1. ①各学年で遊びや教材・環境を工夫し毎日実施、園児の体力向上を推進 ②巧みに動く体作りに向けた遊びを職員間で検討、実施し、共通理解 ③体力測定を実施（7月、11月）3月に成果を確認 ④おたより（5回）や参観日（2回）を活用し、保護者へ健康・体力づくりを情報や体験を提供 2. ①保育実践や各種計画時に、年齢に即した育てたい力を職員間で共通理解 ②夢中になって遊べる環境を工夫。職員間で交流し保育力の向上促進。園児の友達とのかかわりや遊びを工夫する力が増進	T2
目標2 保育事業の充実と業務改善 円滑な園運営の推進および質の高い保育の提供	1. 保育事業の充実 ①保育研究会講演会、専門研修、各種研修への参加による学びの向上 ②保育研究会（4回）へ実践資料を作成し参加。PDCAサイクルを活用し、研究を推進。保育へ活用 ③個を理解した成長発達等の記録と適切な評価 ④架け橋期を意識し、接続カリキュラムを見直して小学校との接続を充実 2. 円滑な園運営のための業務改善 ①朝礼を活用した職員間の共通理解、連絡、周知の徹底（職員会の時間短縮）。ICTによる業務改善の研究 ②安全な休日保育運営の見直し、改善 ③職員の年休取得率向上、働きやすい職場環境の構成	1. ①保育研究会講演会（5月）、専門研修（2回）、各種研修に参加。職員間で報告、学びの向上 ②保育研究会に参加（4回）PDCAサイクルを活用し研究を推進。保育へ活用 ③個の成長発達等の記録と適切な評価を実施 ④接続カリキュラムを見直し、小学校との接続を充実 2. ①事務時間も活用し職員間の共通理解・連絡・周知を徹底し、職員会の時間を短縮。ICTについては導入済み園と交流、改善内容を把握 ②休日保育運営を見直し、保育を提供 ③職員の交流できる場や時間を設定し、働きやすい環境を構成	T2
目標3 親支援の充実 親育ち4363と連携した親支援	1. 親支援の充実 ①園だより、クラス通信、学級懇談会、個別懇談を実施し家庭との連携を強化 ②生活のあゆみを活用し生活の見直しを保護者へ啓発 ③保護者に不適切な養育等が疑われる場合など、市及び関係機関と連携し、虐待防止や養育改善を推進 2. 支援児保育の充実 ①支援児保護者と個別懇談にて受容促進（2回） ②関係機関（各療育機関、保健センター、子ども支援課等）と連携した支援の充実 ③連絡会（1回）、スマイルブック・就学支援シートを活用しての小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①園だより、クラス通信、学級懇談会（2回）、個別懇談（7月及び適宜）を実施し、家庭との連携を強化 ②生活のあゆみを実施（3回）。懇談会にて保護者と成長と課題を共有 ③保護者の対応や園児の身体、言動などに注意を払い観察を実施。要保護児童には特に注意し把握、報告。子ども支援課相談員との連携を実施 2. ①支援児の保護者と必要に応じ個別懇談を実施（2回）。就学や気になる姿、対応について共通理解 ②関係機関と連携し支援を充実。 ③幼保小連絡会、引継会、就学支援シートにて就学児の引継をしスムーズな移行を実施	T3
目標4 食育基本計画に基づく食育指導の推進 子どもの健全な食生活と心身の生活を図るための食育の推進	1. 食育指導の充実 ①給食委員会（5回）、調理研（月1回）の研修内容を保育に反映 ②年齢に合った栽培活動と収穫、キッズクッキングによる食への関心向上 ③おたより等で食育に関する情報提供の実施（2回） 2. 健康的な食事に対する意識の向上 ①アレルギー児への適切な対応及び環境整備と、日常的な食品管理、衛生管理の徹底による安全・安心な給食提供 ②児童発達支援センターへの安全・安心な給食の提供 ③感染症拡大防止のための消毒と給食後の掃除の徹底 ④給食レシピ配布による家庭での食への関心向上	1. ①給食委員会（5回）、調理研（月1回）に参加し食育指導や調理の向上へ活用 ②年齢に合った栽培活動と収穫やキッズクッキングを実施。食への関心向上。給食の残菜減少 ③おたより等で食育に関する情報を提供（5回） 2. ①安全確実な調理と、調理員と保育士との確認を実施（毎日）。保育士の交代時の伝達確認の徹底 ②動線や手順を見直し、児童発達支援センターへの安心・安全な給食の提供 ③感染状況により消毒方法を変更。給食・おやつ時の机の消毒と床拭きを徹底 ④サンプル給食の展示・レシピ配布（5回）レシピ集の情報提供。家庭での食育を推進	T3
目標5 地域と連携した園運営の充実 地域に根差した園運営と危機管理の徹底	1. 地域の環境や人材を生かした保育の実施 ①園庭開放、ふたばっこひろば（年6回）、中央児童館への出張保育などによる未就園児親子の触れ合いの場を提供 ②園活動の周知と理解を図る保育所運営懇談会（2回）の開催、地域会議へ参加 2. 危機管理に対する保育士の意識向上 ①職員会でヒヤリハットを共有、安全な環境整備の実施 ②避難訓練・交通指導（月1回）、防犯訓練（4回）、引き渡し訓練（1回）、午睡時呼吸確認（毎日）の実施 ③感染症に対する正しい理解と予防（消毒徹底等） ④玩具や給食の誤飲・誤食予防の体制強化	1. ①ふたばっこ広場（6回）中央児童館との交流（1回）を実施。未就園児親子のふれあいの場を提供 ②運営懇談会（2回）、運動会を実施。園だよりを配布、園活動の理解推進。地域会議に参加（2回） 2. ①職員会でヒヤリハットを共有。安全点検を実施（月1回） ②避難訓練・交通指導（月1回）防犯訓練（4回）午睡時呼吸確認（毎日）を実施。命を守る訓練から園児の意識の向上 ③各種感染症に対して職員間で共通理解、保護者への注意喚起。園内の感染予防と消毒作業を実施 ④玩具の安全確認や給食の誤食防止のため、職員間の連携と複数での確認を徹底	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称

小泉保育園

補職名・氏名

園長 市原 浩代

組織目標兼管理職個人目標

目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 体を動かすことの楽しさを感じる保育の充実 ①幼児期に身につけておきたい36の基本動作を意識したいいきいき運動遊びを探索し毎日実施。計画的な取組みにより体幹や足腰を強化 ②地域資源を活かした園外保育の充実 ③体を動かす楽しさが感じられる親子ふれあい遊びの充実と、保護者への情報提供 2. 保育内容の充実 ①「幼児期の終わりにまで育ててほしい10の姿」を意識した保育内容 ②保育研究会への参加により保育士の資質向上を促進 ③YouTubeを用いた保育研修の実施	1. ①36の基本動作を意識したいいきいき運動遊びを毎日実施。身体を動かしたくなる保育の実践により体幹や足腰が強化 ②地域資源を活かし園外保育を80回実施。足腰の強化、五感を刺激する保育が充実 ③クラスだよりや園だよりで親子ふれあい遊びの情報提供を12回実施 2. ①10の姿を意識した保育を実施、心と体の成長過程が記された週案の実現により子どもの内面を理解する力が向上 ②保育士の資質が向上、保育に反映 ③YouTubeを用いた保育内容や支援方法、災害等の研修を実施	T2
	保育事業の充実と業務改善	1. 危機管理体制の強化 ①ヒヤリハット表の活用による園環境の安全確保 ②非常時に備え、地域の警察署、消防署の指導により、非常時の対策を強化 ③小学校と連携した引き取り訓練により、災害時の緊急時における保護者職員の意識向上 2. 業務負担軽減の推進 ①報告事項の掲示、朝礼周知による職員の時間短縮と確実な情報共有。ICTによる業務改善の研究 ②職員配置ローテーションの定期的な見直しによる安全に配慮した業務負担軽減の推進 ③全職員協力体制がとれる風通しのよい職場づくり	1. ①ヒヤリハット表を活用し園環境の整備を実施 ②地域の警察署による防犯研修を実施（4回） ③小学校と連携した引き取り訓練により、災害の緊急時における保護者・職員の意識が向上 2. ①報告事項の掲示、朝礼ノートの活用により確実な情報共有が実現。ICTによる業務改善の研究を継続 ②職員配置ローテーションの定期的な見直しによる安全に配慮した業務負担軽減が実現 ③おたすけボードの活用により、全職員協力体制での保育が実現	T2
	地域と運動した園経営	1. 地域との連携を活かした交流事業の実施 ①統合を見据え北野保育園との交流を実施し（2回）、クラスだより等で保護者への適宜情報提供 ②架け橋プログラムに基づき幼保小連携の方法を模索小学校との交流を充実 ③地域の読み聞かせボランティアの活用（月4回） 2. 子育て支援の充実 ①登降園時、個別懇談会（1回）、通信等で子どもの日常の様子を伝え、保護者との相互理解の充実 ②成長のあゆみを活用し生活の見直しを推進 ③「家庭教育の日」の意識化による親子時間の充実 親子読書、ふれあい運動遊びの推進	1. ①統合を見据え北野保育園との交流を実施し（2回）クラスだより等で保護者へ情報提供 ②小学校教諭との懇談により、連携の仕方を確認。学校報（4回）を保護者に配布し、小学校を知る機会の実現、小学校との交流を3月に実施 ③地域の読み聞かせボランティアの活用（月5回） 2. ①登降園時、個別懇談会（2回）、通信等で子どもの日常の様子を伝え、保護者との相互理解が充実 ②成長のあゆみを活用し生活の見直しを推進 ③こいずみっこだよりを月1回発行（12回）し「家庭の日」の意識化が実現	T3
	要支援児保育の充実	1. 支援の充実 ①目標達成に向けた手立てと記録を基に、個別支援計画を作成。支援コーディネーターのアドバイスを活かした支援内容のレベルアップ ②ケース検討会議（月1回）を開催 ③個別懇談（2回以上）し、家庭と密に連携 ④関係機関（療育機関、保健センター、子ども支援課）と連携した支援の充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①中学校区教育懇談（2回）、幼保小連絡会等へ参加により連携を推進 ②スマイルブック・就学支援シートを活用した小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①目標達成に向けた手立てと記録を基に、個別支援計画を作成。支援コーディネーターのアドバイスにより支援が充実 ②ケース検討会議を工夫し随時開催（16回） ③個別懇談（2回以上）し、家庭との連携が実現 ④地域支援事業、保育所等訪問支援事業等の活用、研修会参加（3回）により支援が充実 2. 小学校へのスムーズな移行 ①中学校区教育懇談（2回）、特支コーディネーター園見学等、連携が充実 ②5歳児9名の引継ぎを実施し、小学校へのスムーズな以降に反映	T3
	食育計画に基づいた食育の推進	1. 食事を楽しみ合う子どもの育成 ①栽培活動、収穫体験、キッズクッキング等直接体験を通した食育活動の充実 ②調理研（月1回）・給食委員会（年5回）の研修内容を活かした指導の充実 ③調理室の衛生管理、食品管理の徹底を実施（随時） ④クラスを巡回しての食育指導を実施 2. 「食」に対し保護者への情報提供と意識の向上 ①試食会や懇談会での情報提供 ②サンプル給食やレシピ配布による、手作り料理の推進 ③保護者と連携しアレルギー食の安全な提供を実施	1. ①栽培・収穫体験、キッズクッキング（40回）等直接体験を通した食育活動が充実 ②調理研（月1回）・給食委員会（年5回）の研修内容を活かした指導が充実 ③調理室の衛生管理、食品管理の徹底を随時実施 ④クラスを（週に2回以上）巡回し食育指導を実施 2. ①2月実施により保護者の食に対する意識が向上 ②サンプル給食（月5回）やレシピ配布（月3回）実施し手作り料理を推進 ③アレルギー食の安全な提供を実現	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1.子どもの主体性を育む指導と保育の充実 ①体力アッププランに基づくいきいき運動遊びの充実 ②集中力を高めるいきいき遊びを毎日実施 ③基本的生活習慣の形成を図る指導の充実 ④保育研究会による保育内容の充実（年20回） 2.架け橋期の教育、地域力を生かした保育の充実 ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と連動したアプローチカリキュラムの作成や小学校との連携の充実 ②地域の自然、施設を生かした保育の充実	1.①計画通り運動遊び展開。酷暑でも安全な水遊び環境を工夫した結果、意欲的に挑戦する姿に変容 ②発達や興味関心に沿ういきいき遊び毎日展開 ③心と体の育成資料2回で懇談会啓発し家庭連携 ④保育研は25回参加、保育を見直し再構成。講演会の学びを園内でも共有 2.①共栄小との交流学习を4回実施。5年生と年長児で班編成し、互恵性のある指導を展開。アプローチカリキュラムを作成し1年生と交流学习を実施 ②以上児は散歩55回、未満児は校庭散歩を日常的に実施し自然への探求心が向上。園児がバス乗車で精華愛児幼稚園訪問や、児童館、地域住民との交流で社会性を育成	T2
目標2	保育事業の充実と業務改善 職員が心身共に健康でやりがいをもてる園運営	1.適切かつ機能的な運営組織の確立と業務改善 ①園内研修によるコンプライアンス意識の向上（月1回） ②5S活動で職場、保育環境の改善、維持 ③ICTによる業務改善の研究 2.PDCAサイクルによる指導の工夫 ①実態に合った指導を相談、職員間で共有（週1回） ②幼児理解に基づいた記録と適切な評価の実施（毎日）	1.①毎月職員会で「専門性に基づく関わりの理論と実践」を啓発。保護者の要望に対し保育内容を相談、再構成。保護者は園理解が進み協力、育成の温かい保育内容で連携。結果、不適切保育の防止にも効果 ②分かりやすい掲示、整頓と分別等、5S活動を継続実施。安全衛生委員会の指導を受け改善 ③私立園の現状交流、研修で必要な内容を得る 2.①ケース会議、学年間の相談は毎日の事務時間に実施。決定事項は掲示で周知、職員間で共有。加配保育士9人がノートの記入で共有し進捗状況を把握 ②週案、支援児記録を毎週記録し提出。副園長、園長、担任、支援担当で共有し次の指導へ反映	T2
目標3	要支援児保育、地域との連携 支援の充実と関係機関との連携	1.家庭や関係機関、園内で連携した支援の充実 ①発達特徴を捉えた個別支援計画を作成し、保護者面談を実施（2回） ②支援コーディネーターを中心とした支援の充実 ③関係機関（療育、子ども支援課、保健センター）と連携した保護者支援 2.地域と連携した支援の充実 ①小学校との連携で円滑な就学を支援 ②中学校区教育懇談会（2回）、運営懇談会（2回）で地域に開かれた園づくりの充実	1.①個別支援計画を16名作成し保護者と2回の面談で共有。目標に向け家庭や園内連携をしながら指導 ②支援コーディネーターと支援担当保育士の会議を4回実施。悩みや実態の共有で資質向上 ③訪問支援を18回実施。療育や病院へ訪問し作業療法士と情報共有。保護者の信頼を得て成長確認 2.①共栄小、北栄小教員が訪問し年長児の園生活を視察、相談（3回）。困難事案が多いが、関係機関と丁寧に連携し親子が安心できる就学を支援 ②校区の教育機関と目指す子ども像や課題を2回共有。地域に資源回収の案内を5度回覧し、持ち込みが増加。共栄文化祭参加や運動会参観で地域と連携し、親しみある園を展開	T3
目標4	親育ち子育て支援の充実 親育ち4363と連動した子育て支援の充実や、地域における子育て支援体制の構築	1.子育て支援センターの充実 ①職員が連携し、保護者に寄り添う丁寧な子育て支援の実施 ②東濃地区で連携した支援事業の充実 ③行事、保育内容の見直しと改善 2.保護者支援の充実 ①成長のあゆみや懇談会、園だより、クラスだよりで、家庭と園が連動した生活習慣を育成 ②保護者会と連携した保育、子育て支援の充実	1.①来園者に温かい声かけや相談対応を展開。リポーターが増加 ②市内、東濃地区、全国の会議や研修に12回参加。最新情報や実態に合った相談等、支援事業充実 ③行事は計画通り実施。内容の工夫や要望を来年度の計画に反映、再構成 2.①成長のあゆみ、学級懇談会、個別懇談を実施。担任保育士と保護者が共に子育てを考える機会とし、連動した生活習慣、子育てを展開 ②役員会3回で準備し夏祭りを保護者会が開催。保護者の保育体験で安心し協力体制が増進。ケーブテレビの放映で全保護者に周知。後期は相談計画を重ね新規事業を4回展開し連携強化	T3
目標5	安全安心な保育の実施 危機管理の徹底	1.危機管理に基づく職員の資質向上 ①避難訓練・交通指導（毎月）、引き取り訓練（1回）、防犯訓練（3回）で安全教育の徹底 ②施設、遊具の安全点検（月2回）を実施し、危険箇所の改善 ③保育倫理や専門性に基づく保育の意識向上 ④感染症の対策や予防意識と早期対応の実施 2.安心安全な給食の提供 ①食品の衛生管理徹底による安心安全な給食提供 ②食物アレルギー児への適切な対応の徹底 ③エビペンの安全管理と危険時を想定した講習	1.①安全教育の指導は見直し順調に実施。引き取り訓練は地域の小中学校と、防犯訓練は共栄駐在所と連携実施 ②安全点検は点検項目に沿って担当者が毎月確認。安全衛生委員会の職場巡視2回で危険箇所改善 ③園内研修12回と、園外研修34回延べ82名が参加し、資質向上。園内でも交流し、知識を定着 ④職員会で予防や対応について周知し実践。12月感染症流行時にも迅速対応 2.①②保護者、保育士、調理員と連携し、安全な給食提供を実施 ③エビペンの所有児2名の安全管理と対応を職員会で周知	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標			達成度
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1.運動が楽しいと感じるいきいき運動遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成。体を動かすことが楽しいと感じる内容と環境を工夫し毎日実施 ②体力測定（1回）を実施し、成果課題を確認し反映 ③保育研究会を通して発達に合わせた運動遊びを交流し保育に反映 2.発達に合わせた保育の充実 ①集中力や自信を高めるいきいき遊びを毎日実施 ②「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から保育の視点を捉えるための研修、研究及び実践 ③異年齢での関わり、当番活動やお手伝いなど自己肯定感が高まる保育内容の工夫	1.①体力アッププラン作成。いきいき運動を毎日実施。参観日、運動会に親子で体を動かす楽しさを体験する機会を設け保護者に好評。園便りに親子運動を掲載（年8回）し親子運動を推進 ②体力測定2回を実施し比較。投力に伸びを確認 ③研究会（5回）で学んだ内容を職員会にて交流。保育に反映 2.①体を使ったものなど内容を工夫し毎日実施 ②「10の姿」から保育を捉えられるよう毎月の職員会でミニ研修会を実施。保育に反映 ③異年齢ペアを作り、散歩リズム、お店屋さんなど異年齢での関わりがもてる活動（週1回以上）を取り入れ、思いやりや自己肯定感が向上	T2
目標2 保育事業の充実と業務改善 架け橋を意識した保育の充実と業務負担軽減のための対策検討	1.「架け橋期」教育を見通した保育の充実 ①中学校校区教育懇談（2回）をはじめ、小学校と連携し職員同士の交流の場を通して子供の姿の共通理解 ②小学校と連携し子ども同士の交流の場を設定 ③「全体的な計画」から週案へ下ろし子どもの実態に合わせ週案の裏面利用しPDCA 2.ワークライフバランスを意識した園経営 ①年次休暇の推進と自己評価による不適切保育の防止 ②全職員協力体制がとれる風通しの良い職場づくりと、保育準備の簡素化の検討 ③定期的なローテーションの見直しによる小ミーティングによる保育の質の向上 ④ICTによる業務改善の研究	1.①校区懇（年2回）支援コーディネーター見学会（年4回）小泉小職員交流（3回）で共通理解 ②小泉、池田小と子ども同士の交流を実施 ③毎週週案から評価反省をPDCAし保育を展開 2.①チェックリストにより自分の保育の振り返りを実施（年2回）。不適切保育防止に成果 ②他園からの応援体制を提案。役割分担を再検討し職員の協力体制を強化。円滑な園運営に効果 ③事務時間を使った小ミーティング（週1回）や学年打合せにより保育の質が向上 ④事務員、園務員配置により、園長、副園長の事務仕事量が軽減。保育者とのコミュニケーションが増加	T2
目標3 地域連携と親支援の充実 地域との連携を活かした保育所運営と子育て支援事業の充実	1.地域の環境や人材を活かした保育の実施 ①畑栽培など地域の方と連携した保育の実施 ②地域の環境（緑地公園、遺跡等）を活かした保育を実施し、クラスだよりで地域の資源を保護者へ啓発 ③小泉保育園との統合を見据えた交流事業（2回）を実施し、クラスだよりにて保護者へ周知 2.親育ち支援の充実 ①成長や悩みを降園時に保護者と連携し育ちを共有 ②親子絵本やふれあい遊びなど、親子で触れ合える機会を増やし、子育て力の向上を促進 ③園だよりや懇談会で早寝、早起き、朝ごはんの大切さを周知し、保護者へ基本的生活習慣の確立を啓蒙 ④園庭開放（6回）で未就園児保護者への子育て支援	1.①喜楽会と畑の栽培交流（年8回）。絵本読み聞かせボランティア（月1回）の実施 ②遺跡公園や喜多緑地公園など園外保育に出かけ、子どもたちの様子をクラスだよりにて周知 ③小泉保育園と交流（年2回）し便りで保護者周知 2.①4、5月保護者と信頼関係構築のため登降園時に話す機会を確保。都度成長の姿を交流 ②7月、10月、1月に親子絵本推奨月間を実施。親子の関りを通して絵本への関心が向上 ③成長の歩み（年3回）クラス懇談会（年2回）にて基本的生活習慣について周知 ④園庭開放（年6回）園見学（13名）地域の未就園児来園	T3
目標4 要支援内容の充実 要支援に対する支援の充実と関係機関との連携	1.支援の充実 ①個別支援計画を作成し、保護者との懇談（2回）を実施し、目標の共有と、家庭との連携による保育を実施 ②ケース検討会議を適宜開催し、職員間の共通理解を促し保育を実施 ③関係機関（児童発達支援センター、保健センター）と連携した支援の充実 ④訪問等支援事業を受け、支援のレベルアップ 2.小学校へのスムーズな移行 ①支援コーディネーター交流、幼保小連絡会（1回）へ参加し連携を推進 ②スマイルブックの推奨及び就学支援シートを活用した小学校へのスムーズな移行	1.①個別支援計画を作成し、6月2月保護者との懇談会を実施。保護者と連携し保育を実施 ②ケース会議（年5回）や職員会にて他の職員に周知し、共通理解のもと保育を実施 ③保健センターの3歳半健診にあたり保健センターと連携し支援を充実 ④訪問等支援（前期後期各8回）を受け支援センターわかばと連携。支援の方法を学び保育に反映 2.①小泉校区支援コーディネーターの交流（8月）幼保小連絡会に年長担任2名参加し連携 ②スマイルブック（4名）支援シート引継ぎ（3名）を利用し各小学校へのスムーズな移行を推進	T3
目標5 危機管理体制の強化と安全な保育の充実 安全教育の充実と安全安心な保育の実施	1.危機管理体制の強化 ①非常時に備え避難訓練、交通安全指導、防犯訓練を定期的に実施し、地域と連携した引き渡し訓練を実施 ②職員会でヒヤリハットを共有し、共通理解の上で環境整備を実施 ③施設、遊具の安全点検を実施 2.安全安心な給食の提供 ①調理員、栄養士職員及び保護者と連携しアレルギー児、支援を要する児の誤飲誤食誤嚥予防体制の強化 ②衛生、食品管理の徹底と安全安心な給食の提供 3.感染症対策 ①保育室の喚起、清掃消毒に留意し実施 ②家庭への情報提供による感染拡大の予防	1.①地域と連携し引き渡し訓練を実施（4月）。災害時における園内の役割分担動線を見直し改善。避難訓練、交通指導（毎月）防犯訓練（3回）を実施 ②毎月クラスごとにヒヤリハットマップを記入。多い場所について職員会で検討し改善 ③施設遊具は毎週土曜日に点検。年4回消防自主点検実施 2.①アレルギー児対応を4月職員会で周知。毎日の朝礼で確認 ②検食による食品状態の確認（毎日）都度対応 3.①保育室の換気、清掃（毎日）消毒都度対応 ②保護者に便りで感染症の情報を提供し毎日感染状況をボードで周知	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）		

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	市之倉保育園
補職名・氏名	園長 長谷川 昌子

組織目標兼管理職個人目標

目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. 子どもの主体性を育てる遊びの充実 ①年齢に適した感覚機能を養うための室内外遊びを検討し、体力アッププラン、いきいき運動遊び及びいきいき遊びなど毎日実施、効果測定(3月)にて成果課題を確認し運動遊びや生活に反映 ②各年齢の発達や実態に合わせた『10の姿』を意識した保育内容の検討と改善及び工夫の実施 ③季節、環境を活かした体験活動や遊びの計画実施 2. 要支援児保育の充実 ①個別支援計画を作成し、ケース会議(月1回)にて共通理解を図り、支援内容のレベル向上を促進 ②個別懇談(年2回)行い、家庭と連携した支援の充実 ③関係機関(児童発達支援センター等)と連携した支援充実	1. ①各年齢に適した室内外遊びの体力アッププラン、いきいき運動遊び及びいきいき遊びを計画し、毎日実施。体力向上及び課題確認 ②各年齢の発達や実態にあった生活や遊びを工夫し、職員間、週案や月案等で見直し改善実施 ③園外活動や季節にあった遊びを計画し、子ども達の興味や関心を広げ、五感や意欲を向上 2. ①個別支援計画を作成し、ケース会議(月1)にて職員間で共通理解。支援方法の向上促進 ②個別懇談(6、2月)実施し、家庭と連携を図り、支援の充実 ③訪問支援事業(月2回)、発達児童支援センター訪問(1回)を実施し、児の様子の交流し支援の充実	T2
目標2	保育事業の充実と業務改善 円滑な園経営の推進及び質の高い保育の提供	1. 職員の資質向上のための園内外研修の実施 ①『架け橋期』教育を意識し、全体的な計画(保育課程)や年案月案を見直し、評価・課題検証・改善実施 ②保育研究講演会、専門研修、各種研修会(保育研等)への参加、実践資料に基づいた園内研修実施 ③教材等の研究など保育知識・情報の共通理解 ④小学校へスムーズに移行するために職員交流や児童・園児交流、小学校連絡会、就学支援シートを活用 2. 業務負担軽減の検討 ①確実な情報共有の工夫。ICTによる業務改善の研究 ②見通しを踏まえた計画及びPDCAサイクルを意識した保育実践、教材準備及び全職員の協力体制を構築 ③職員の勤務状態に配慮した職員配置、シフトの作成	1. ①全体的計画(保育課程)や年案月案を実践に適するか評価し、来年度に向けての課題改善 ②保育研究講演会(5月)、専門研修(8、12月)、各種研修会に参加。職員会で報告し保育に反映 ③園内研修(月1)実施。保育知識や情報共通理解 ④生徒との交流(年3)、連絡会(10月)、小学校参観や保育の見学、就学支援引継ぎシートにより、小学校へスムーズな移行 2. ①伝達事項を目立つところにボードにて掲示。 ②行事や活動を見通し準備や計画し、行事や活動後評価課題を踏まえ、協力体制を構築 ③勤務状態に合った職員配置やシフト調整。時間内で仕事完了	T2
目標3	親支援の充実 親育ち4363と連携した親支援	1. 早寝・早起き・朝ごはんの推進 ①園だより(年3回)や懇談会(年2回)で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②各年齢に応じた内容を検討し、生活のあゆみなどを活用し、生活の見直しを保護者に周知 2. 子育て支援の充実 ①登降園時、個別懇談会(年1回)、クラスだより(月1回)、行事への参加にて子どもの日常の様子を保護者と相互理解し、子育ての充実 ②親子ふれあい遊びや絵本の紹介など情報提供 ③保護者に不適切な養育等が疑われる場合に市や関係機関と連携し、適切な対応で虐待予防や養育改善	1. ①園だより(年3以上)、懇談会(5、2月)で早寝・早起き・朝ごはんの大切さ等を周知 ②各年齢に応じた生活の見直しをし、クラスだよりや懇談会にて保護者に周知 2. ①登降園時、個別懇談会(7月)、クラスだより(月1)、行事への参加にて子どもの日常の様子を保護者と相互理解し、子育てが楽しく充実 ②親子ふれあい遊びや絵本紹介を通信にて提供 ③保護者や子どもの様子を視診し、不健康に感じた時は言葉をかけるなど、虐待予防や養育改善	T3
目標4	食育基本計画に基づく食育指導の推進 子どもの健全な食生活と心身の成長を図るための食育の推進	1. 食育指導の充実 ①給食委員会(年5回)、調理研(月1回)、食育研(年6回)の研修結果を保育に反映 ②年齢に合った栽培活動(年5回)と園行事や園の生活にあわせたクッキング体験の実施 2. 健康的な食事に対する意識の向上 ①試食会や懇談会での情報提供の実施(年2回) ②サンプル展示及びレシピを配布し、食への意識向上 ③アレルギー児への適切な対応及び環境を整備。食品の管理(毎日)の徹底より、安心・安全な給食の提供	1. ①給食委員会(年5)、調理研(月1)等の研修結果を職員会等で開き、保育に反映 ②年齢に合った栽培活動(野菜10種)や給食の食材の下拵え(トウモロコシの皮むきなど)、栽培物の簡単なクッキング体験実施 2. ①食事マナーなど懇談会にて情報提供。年長の試食会(2月)を実施し、食への関心向上 ②サンプル給食展示及びレシピ配布(月2)し、食への意識向上 ③アレルギー児の献立を給食室、職員室、担任、朝礼にて確認及び誤食誤飲がないよう環境整備	T3
目標5	地域に開かれた幼稚園運営の充実 地域と連携した円滑な園運営	1. 地域の教育力を生かした保育の充実 ①老人会交流(年2回)、公民館交流、ひよこ広場(年6回)、児童センター、地域行事参加(年2回)を実施 ②地域の小学校や中学校との交流 ③園運営への理解と地域の連携を図る保育所運営懇談会(年2回)を開催、地域行事への出席 ④どんぐりの森清掃事業の円滑な実施 2. 危機管理に対する保育者の意識向上 ①災害時を想定した引渡訓練(年1回)、避難訓練(月1回)、交通指導(月1回)、防犯訓練(年3回)の実施 ②新型コロナウイルス、ノロウイルス等の感染症に対する感染予防の徹底、地域や保護者との情報提供、職員の意識向上 ③玩具や給食の誤飲、誤食予防の体制の強化	1. ①公民館との交流(年3)、ひよこ広場(年5)、児童センターとの交流(年2)、老人会との交流(10月)地域行事参加 ②小学校や中学校の職場体験等交流。地域教育力向上 ③保育所運営懇談会(6、2月)、市之倉地区懇談会中学校区懇談会(年2回)に参加 ④どんぐりの森清掃事業に参加し、地域と交流 2. ①引渡訓練(5月)、避難訓練(月1)、交通指導(月1)、防犯訓練(7月)に実施 ②感染症に対する感染予防の徹底や保護者に流行っている病気等の情報提供 ③玩具の見直しや給食の誤飲、誤食の予防強化	T3
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		(目標設定)	(成果)	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. いきいき遊び、いきいき運動遊びの充実 ①多様な動きを身に着けることができるよう、いきいき運動遊びを実施（毎日） ②体力向上を意識した戸外活動の実施 ③保護者へ健康・体力づくりの情報を提供し共有 ④毎日実施することを通して、子どもの自己肯定感や活動への意欲を向上 ⑤教材の交流や発達に合わせた教材の作成 2. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の力」を踏まえた保育の充実 ①子どもが遊び込むための素材や環境を工夫、充実 ②遊びや子どもの姿の交流を随時行い、保育を充実	1. ①子どもの発達に合わせた遊びを検討・実施。学年会で振り返り次の活動を充実 ②園外に定期的に出かけ、足腰強化を推進 ③6月に測定を実施。結果をもとに活動を検討。1年の体力向上を確認(3月) ④子どもの姿に合わせた遊びを考え、毎日実施。体力、活動に対する挑戦・意欲が向上 ⑤子供に合わせた教材を作成、実践 2. ①学年会、職員会にて子どもの姿を交流し、遊びの交流を行い、系統立てた遊びの工夫を実施 ②日々の遊びについての交流・検討を行い、年間計画を随時見直し、遊びを計画、実践	T3
目標2	保育事業の充実と業務改善 保育士の資質向上と親育ち4363と連動した親支援の充実	1. 保育資質の向上と業務の見直し ①運動遊びをテーマに年間を通し保育研究会を各学年で実施（5回）PDCAサイクルを活用して保育内容を発展・充実 ②各種研修会に参加し交流し合うことで、保育内容の充実及び資質の向上 ③業務内容の見直しやスリム化を日常的に検討、実践。ICTによる業務改善の研究 ④チェックリストを活用し、不適切保育防止の意識醸成 2. 親支援の推進 ①学力向上チェックリスト、生活アンケートを実施、分析し、結果を保護者と共有 ②園だより、通信、懇談会を利用し、生活習慣の向上につながる情報を発信	1. ①講演にて運動遊びの大切さを学び、研究会を実施。常にPDCAサイクルを意識した保育を実施 ②各種研修会に参加(対面、オンライン等)し、報告により職員間共有を行い、保育の質の向上 ③働きやすい環境を作り、職員間の協力体制を推進。環境づくりのアイデアを職員から収集し、検討・改善。要録のシステム化を実施。 2. ①学力向上シート（2回）保護者アンケート（2回）を実施。懇談会にて保護者と成長や課題を共有 2. ②生活習慣向上に関し、懇談会資料、クラスだより及び園だよりにて保護者に定期的周知	T3
目標3	笠原こども園の開園に向けた準備 円滑な移行の準備、工事期間中の安全な保育の実現	1. 笠原保育園、幼稚園の統合こども園化の推進 ①工事期間中の安全確保と保育・運営の工夫 ②園内で共有検討した課題をあり方検討委員会にて共有検討し、施設整備の参考意見としてまとめる ③こども園整備計画の進捗を随時保護者、地域に発信 ④こども園の具体的な運営について調査研究 2. 幼保小中との交流の充実 ①一貫教育を踏まえた保育の充実 ②こども園化を見据えた幼稚園との交流事業の実施 ③架け橋期を意識した小学校との交流の充実 ④運営懇談会（2回）にて園での活動を理解していただくとともに、随時、こども園化への状況を報告	1. ①関係者との意見交換を密に実施。工事の進行に合わせて出てきた問題に対して迅速に対応 ②委員会での課題を園内で検討。意見を提案 ③保護者地域に情報提供し理解の上事業実施 ④幼保友会調整会議、幼保園運営会議を実施。運営に向けての問題や意見の調整を実施 2. ①一貫教育の柱を意識した保育や保護者への啓蒙を実施 ②幼稚園との交流を6回実施 ③小学教諭の園見学を通しスムーズな移行準備 ④運営懇談会を1回実施。一年間の運営方針を説明。子ども園化への状況も随時報告	T2
目標4	要支援児保育の充実 要支援児に対する支援の充実と関係機関との連携	1. 支援の充実 ①発達を踏まえた個別支援計画を作成 ②ケース検討会議（月1回）を開催 ③就学相談など保護者との個別懇談を適宜実施 ④関係機関（児童発達支援センター、保健センター等）と連携した支援の充実 ⑤職員間での適切な情報共有を行い、統一支援を実施 2. 小学校へのスムーズな移行 ①中学校区教育懇談会（2回）、連絡会（1回）及び各小学校との職員交流を積極的に実施 ②小学校との密接な連絡調整により就学後もフォロー ③特別支援コーディネーター研修を通じた情報交流や連携を実施	1. ①保護者との面談を実施し（5月）、共通理解のもとに計画を作成。成果確認を実施（3月） ②ケース検討会議を毎月実施。園児の姿や支援方法を確認、振り返り、日々の保育を充実 ③支援コーディネーターを中心に保護者面談を実施し、就学先選定について保護者理解を醸成 ④訪問支援事業を通し、連携した支援を実施。支援内容の向上を促進 ⑤職員会で情報共有し統一的な支援を実施 2. ①教育懇談会（2回）幼保小中一貫教育はじめの会（1回）にて情報交流を実施 ②卒園児の交流を1年生担任と実施（4月） ③小学校教諭の年長児参観を実施し情報共有	T3
目標5	食育計画に基づいた食育の推進 豊かな心と体をはぐくむ食育の在り方	1. 指導の充実 ①調理研(毎月)、給食委員会(5回)及び食育研(6回)など研修内容の共有、活用し、指導を充実 ②年間計画に沿った野菜の栽培、収穫体験、年齢に適したクッキング体験を通した食育活動の充実 ③調理室の衛生管理、食品管理の徹底を実施(随時) ④クラス巡回による食育指導の実施 2. 「食」に対しての情報提供と意識の向上 ①試食会や懇談会での情報提供 ②視覚的効果を期待したパネル給食展示を随時実施 ③アレルギー食、離乳食等保護者と連携し、安全、安心な提供を実施	1. ①調理研(11回の研修に参加し技術向上を図る) ②子どもの食育意識の醸成を図り、収穫物を使ったクッキングや給食を実施 ③衛生管理表に基づいた清掃を毎日実施。在庫管理を徹底し食材を発注 ④子どもとの直接対話を通して積極的な食育活動を実施。食への関心が向上 2. ①保護者を対象とした食育だよりやレシピを発行（4回）。食への関心が向上 ②サンプル給食(月4回)実施し、調理員が直接保護者と交流を実施 ③朝礼で毎日、アレルギーチェック表を用いたチェックを実施。安全に給食を提供	T3
b	独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定）	（成果）	

組織名称	星ヶ台保育園
補職名・氏名	園長 加藤 裕子

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1.いきいき遊び・生き生き運動遊びの充実 ①年齢別目標を明確にし「体力アッププラン」を作成。朝の運動遊びコーナーを含め、いきいき運動遊びを毎日実施。計画的な取組みにより体幹や足腰を強化 ②体力測定を行い（2回）、体力向上成果と課題検証を参考に体力作りについて保護者に情報提供 ③集中力や自信を高め、意欲の向上に繋がるいきいき遊びの定着を促進 2.豊かな心を育む保育の充実 ①年齢に応じた野菜栽培計画を立案、実施し、収穫野菜を活かしたメニュー提案とキッズクッキングの実施 ②年齢に応じた絵本の選択と、毎日の読み聞かせの実施及び保護者への情報提供	1.①指導計画(体力アッププラン)に沿った運動遊びを毎日実施。楽しく意欲的に体を動かす姿の増加と足腰を強化 ②体力測定を2回実施(6月・11月)。数値を比較し体力向上を確認。2月の懇談会で保護者に報告 ③年齢に合った教材を利用し毎日実施。子ども達のやる気と集中力が高まり、自信と意欲が向上 2.①栽培計画を基に実施。調理員と連携し収穫野菜を活かしたメニューの提案。給食提供(17回)とクッキング(26回)の実施により食への関心と意欲が向上 ②年齢や興味関心に合わせた絵本を選択し毎日の読み聞かせが定着。情緒の安定、言葉の獲得、集中力が向上。おすすめ絵本をクラスだよりで紹介	T2
	保育事業の充実と業務改善	1.保育内容の充実 ①10の姿を踏まえた保育計画と実践。全体的な計画、年案、月案、週案、個別計画に反映した保育内容の充実。振り返りによる保育の見直しと改善 ②保育研究会の「体づくり」を視点とした保育の実践。講演会、研修等への参加による知識の習得と保育士の資質向上推進 2.業務負担軽減の推進 ①行事計画等、時間内の事前打ち合わせの実施、事務時間の確保及び報告事項の掲示、朝礼での周知と職員会の時間短縮の徹底。ICTによる業務改善の研究 ②書類の簡素化による業務負担軽減と正規職員のリフレッシュのための積極的な休暇取得の実現	1.①10の姿を意識しながら環境構成や個々に配慮した保育を実施。評価反省を活かした保育内容の見直しの徹底や工夫により子どもたちの成長の実現 ②保育研究会の視点を意識した保育の取り組みと充実した討議により保育士の資質が向上。講演会・研修会参加にて知識を習得し各自の保育に反映 2.①積極的な事務時間の確保。職員会前の事前打ち合わせによる職員会の時間短縮の実現。毎日の朝礼と会計年度職員の職員会参加により全職員への伝達事項の周知徹底。ICT化については模索中 ②要録の簡素化、クラスだよりの返信削減、年賀状廃止など負担軽減に着手。積極的な年休取得は大きな課題	T3
目標3	要支援児保育の充実	1.支援の充実 ①個別支援計画を作成し、目標達成に向けた手立てと記録を基に、ケース検討会議を開催。支援を要する子の現状を交流し、情報共有の徹底 ②支援コーディネーターのアドバイスを活かした支援のレベルアップを図る ③関係機関(発達支援センターわかば、保健センター、支援課)と連携した支援の充実 ④保護者への日常的な声掛け、個別懇談の充実により家庭との信頼関係を構築 2.小学校へのスムーズな移行 ①小学校との連絡会への参加により連携を強化 ②スイングブック、就学支援シートによるスムーズな移行実現	1.①②個別支援計画に基づき、課題に対する適切な支援の実現とコーディネーターによる指導と改善で支援が充実。情報交流や資料についてケース会議を開催(3回)。新たな気になる子の現状を職員間で把握し支援方法を共有 ③訪問支援15回、発達支援センター訪問2回、保健センター資料提出23回、支援課訪問8回により連携した支援方法の向上 ④全園児と個別懇談1回。個別支援計画を作成した支援児の保護者と合意形成(11人)。必要に応じて面談実施。信頼関係を構築し新たに発達相談(16件)や療育の通級(5件)に接続 2.①②学校、園、家庭と情報交換し連携強化。就学に向けたスムーズな移行の実現	T2
	安全な保育の実施	1.危機管理体制の強化 ①避難訓練、交通指導(各月1回)、防犯訓練(年3回)の実施と振り返り。引き取り訓練では保護者と連携し、災害時や緊急時における職員の意識向上 ②施設、遊具の安全点検(月1回)を実施。ヒヤリハットの共通理解による早急な対応と環境整備 2.感染症に関する情報を職員及び保護者と共有し、マニュアルの再確認と職員連携を充実 3.アレルギー児に対し、調理員、保護者、保育士が連携し、毎日の献立表の確実なチェックによる誤食防止など、安全・安心な給食を提供 4.子ども一人一人に合わせた給食(離乳食)の提供	1.①計画に基づき各訓練を実施。訓練後の反省と職員間の話し合いによる再確認と改善により安全意識が向上。防犯訓練は反省を踏まえて再度実施 ②職員による安全点検、業者による定期点検を確実に実施。危険箇所は即時対応、怪みの発生後はヒヤリハット事例として職員会で周知し環境整備徹底 2.感染症が流行した場合はお便りやメールで注意喚起及び毎日の状況はボードで保護者に周知し体調管理に活用。職員間の情報共有と対応の再確認 3.毎月のアレルギーチェック体制を強化。毎日朝礼時と配膳時に確認し誤食防止の徹底。食品の確実な検収と衛生管理で安心安全な給食を提供 4.個に合わせた給食の提供を実施	T3
目標5	親支援の充実と地域の連携	1.家庭と連携した保育の充実 ①早寝・早起き・朝ごはんの推進に向け、園だより(4回)や懇談会(2回)等で情報提供し大切さを周知 ②家庭の日と連動したノーテレビ・ノーゲームデーの定着を家庭での取り組みとして提案。結果とコメントを保護者に周知 2.子育て支援の充実 ①登園時、個別懇談会(1回)、クラスだより等で子どもの日常の様子を伝え、保護者と相互理解醸成 ②成長のあゆみを活用し、生活の見直しを推進。結果をまとめ基本的生活習慣の大切さを保護者に周知 3.地域の連携と世代間交流を通じた保育の実施と、園庭開放、出張保育の実施	1.①懇談会資料に全ての年齢の記事を掲載。朝食アンケートや園だよりで周知 ②ノーテレビ・ノーゲームデーを啓発。家庭での過ごし方の提案とアンケートの実施により保護者の意識が定着 2.①送迎時とクラスだよりの通信欄で交流。信頼関係のもと子どもの成長や課題を共有し連携を強化 ②成長のあゆみの結果を集計し、成果と課題を保護者に周知。生活習慣の大切さを再発信 3.園庭開放(5回)出張保育(6回)児童センター訪問(2回)を実施。交流により子育て支援を推進。中学生の職場体験、講話、高校生対象の体験ツアー「保育のおしごと」で保育の仕事の魅力を継承	T3
b 独自目標加算 (任意設定) 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		(目標設定)	(成果)	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織名称	養正小学校附属幼稚園
補職名・氏名	園長 鈴木 恵美子

組織目標兼管理職個人目標

目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 豊かな遊びと環境構成の工夫 ①体力アッププランに基づきいきいき運動遊びの充実 ②意欲と自己肯定感を高めるいきいき遊びの実践と教材の作成 ③主体的な「なかよし遊び」になるための連携会議（月2回）と環境づくり 2. 発達を促す遊びの充実 ①教育課程を見直し、5領域を意識した保育の実践とPDCAサイクルによる指導の工夫 ②幼児理解に基づいた記録と適切な評価の実施(毎日) ③「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を意識した保育の実践	1. ①作成した体力アッププランに基づき、年齢と季節に合った運動遊びの実践、常時利用できる運動遊びの部屋の活用、小学校や地域を活用した保育で運動好きな子の増加と足腰強化 ②いきいき遊びの実践で意欲と自己肯定感増加 ③なかよし遊びの計画、実践、見直しの繰り返し（月2回以上）で主体的に遊ぶ子の増加 2. ①教育課程を見直し、5領域とPDCAサイクルを意識した週案と記録で保育を計画的に実践 ②職員間で幼児理解を日常的に交流し、記録や評価の積み上げで子どもの成長と課題を共有、確認 ③「10の姿」の理解を深めた園内研の実施で、職員の意識の向上と見直しをもった保育を実践	T2
	保育事業の充実と業務改善	1. 園内外研修を通じた職員の資質向上 ①研究主題に沿った園内研修の充実と公開保育（3回）の実施 ②各種研修会、研究会による資質向上と学びの共有 ③「架け橋期」教育を意識した保育の充実 ④園内研修による不適切保育の未然防止と職員の意識向上 2. 保育の質を意識した業務の見直しと改善 ①幼稚園の良さを維持した業務や行事の見直しと改善 ②ワークライフバランスを意識した園運営 ③ICTによる業務改善の研究	1. ①園内研5回、公開保育3回実施 ②教師塾（7人）専門研（12人）市内の各種研究会に参加し資質向上。職員会の報告で学びを交流し、保育を充実 ③スタートアップ、77°ローカリキュラムを確認。小学校との交流6回で双方の意義と学びを交流 ④不適切保育、人権擁護の園内研修を実施。チェック表の利用と定期的な指導で職員の意識向上 2. ①意図的な異年齢保育で行事や活動を充実し子どもの成長を育成。保護者に保育内容を発信し好評 ②雑務や保育準備の仕事振り分けと見直しで残業時間を削減 ③岐阜市、土岐市のICTを見聞	T3
目標3	地域力を生かした保育の充実	1. 地域の教育力を生かした保育の充実 ①地域と協力、連携した保育内容の展開（保育園、小学校、中学校、高校、公民館、商店街等） ②園庭開放（3回）実施し参加者に幼稚園の良さをPR ③小学校との密な連携で滑らかな就学を支援 2. 関係機関と連携を図った支援の充実 ①個別支援計画を作成し、保護者と面談（3回） ②保育所等訪問支援事業を活用し、適切な支援の定着 ③関係機関（児童発達支援センター・保健センター等）と連携した支援の充実 ④評議員会（3回）による公開保育と意見交流による園運営の周知と保育理解	1. ①地域会議（5回）で地域住民と交流。スガの先生の指導、公民館交流（4回）小学校（6回）中学校（2回）高校（1回）等地域力を生かした保育実践 ②園庭開放（3回）実施。延25組参加。幼稚園の良さをPR ③園内研に教員参加（2名）校内研見学（7名）5年生の交流（4回）1年生（1回）校内見学を実施 2. ①個別支援計画作成し、保護者と面談（8回） ②保育所等訪問支援事業（8回）実施。療育との連携で指導の確認と支援、親支援の充実 ③児童発達支援センター（5回）見学。保健センター（9人）の連携でより良い支援を構築 ④評議員会（3回）で園運営の周知と保育を理解	T3
	親育ち子育て事業の充実	1. 親支援の充実 ①幼稚園と家庭が一体となった取り組みの実施 ②保護者のつながりを強化した園と父母の会の取り組みと家庭教育学級の実施（4回） ③母親ボランティアによる保育活動への参加で子ども理解の推進 ④保護者との個別懇談（年2回）で家庭と連携 2. 就学を見通した支援の充実 ①毎日の支援記録とケース検討会議（毎月）実施でPDCAの支援を実践 ②中学校区懇談会、連絡会、支援シートを活用し小学校へのスムーズな移行の実施	1. ①②夏祭り、運動会、奉仕作業（3回）等の園行事や資源回収（5回）家庭教育学級（5回）父母の会運営懇談会（5回）バザー等父母の会行事実施。園運営の理解と協力の中保護者支援や交流を実施 ③母親ボランティアの絵本読み聞かせ（11日）子どもバザーの保育参加が好評。母子触れ合いに貢献 ④クラス・個別懇談会（各2回）実施で家庭と園の様子を交流し保育に反映。誕生会後の子育て交流会（11回）の内容を手紙で周知 2. ①支援記録とケース会議で支援方法の見直しと確認、職員共通理解と対応で支援の充実 ②中学校区懇談会（3回）連絡会（1回）支援シート（2人）で就学を見据えた職員連携協力体制を構築	T3
目標5	安心・安全な園運営の実施	1. 危機管理に対する職員の意識向上 ①引き取り訓練（1回）、避難訓練・交通指導・（毎月）、防犯訓練（3回）で安全教育の実施 ②施設、遊具の安全点検実施（毎月）し、危険個所の把握と早急な対応の実施 ③栽培物を使った食育指導で安全・安心な調理で提供 2. 施設の有効活用 ①旧ことばの教室の部屋の活用と用品、備品の整理 ②少人数学級を生かしたクラス活動と異年齢保育	1. ①引き取り訓練（1回）避難訓練・交通指導（毎月）防犯訓練（3回）実施。指導の見直しと反省を踏まえた計画と実践 ②安全点検（毎月）実施。危険個所の早期把握で対応を迅速に行い、安全な保育実施 ③栽培物（12種）による直接体験と調理体験（6種）で家庭と連携した食育指導を実施し、食への関心増加 2. ①旧ことばの教室に常時運動器具を設置し、アスレチック室として有効活用。用品、備品の環境整備で保育が充実 ②少人数学級を生かした手厚い保育運営と意図的な異年齢保育の実践で子どもの内面の育ちに直結	T3
	b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）

組織名称	昭和小学校附属幼稚園
補職名・氏名	園長 渡辺 真弓

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健康な心と体を育む保育の充実	1. 子どもの主体性を育てる遊びの充実 ①「体力アッププラン」を作成し、体力向上を目指して年齢に合ったいきいき運動遊びを毎日実施。体力測定実施（2回）で効果測定（3月）及び検証 ②いきいき遊び、なかよし遊びなど年間計画を作成し、主体性や意欲向上を目指して毎日実施 2. 発達に合わせた保育の充実 ①各年齢の発達・実態に合わせて「10の姿」を意識した保育内容の検討と改善・工夫の実施 ②たじっこチャレンジ（3回）や通信を活用して、生活・運動習慣等の大切さを保護者に周知 ③個別懇談会（2回）、クラス懇談会（2回）で情報提供と保護者支援・指導の実施	1. ①戸外・室内共積極的に運動遊び実施（毎日）。内容を考慮したクラス活動で体力向上。体力測定（2回）で効果測定及び検証実施 ②いきいき・なかよし遊びを毎日実施。運動部屋での運動遊びの取り組み増加及び意欲と主体性向上 2. ①環境設定や援助指導等随時検討・改善・工夫し、発達・実態に即して10の姿を意識した保育を実施 ②たじっこチャレンジ（3回）により、生活・運動習慣の大切さや実践例を周知 ③個別懇談（4、11月）、クラス懇談（5、2月）通信等で情報提供。個別に保護者相談・指導を実施	T2
	保育事業の充実と業務改善	1. 職員の資質向上のための園内外研修の実施 ①新採・園内研修等で幼児理解、環境構成及び指導援助を検討し実践。3つの柱を意識した保育の充実 ②推進研、課題研、幼児研及び各種研修への参加による実践資料に基づいた園内研修実施 ③「架け橋期」を意識した小学校交流と交流を活かした保育内容の検討・計画と実施 2. 業務負担軽減の検討 ①事務処理、各種事務書類の簡素化 ②教材準備及び環境整備の役割分担・協力体制を構築 ③伝達事項の可視化・掲示で確実な情報共有の工夫及び職場の5S周知確認 ④ICTによる業務改善の研究	1. ①新採研（18回）園内研修（3回）を実施。研修・講師の指導や研究構想図を基に3つの柱を意識した保育内容の討論等、保育の改善及び充実並びに職員の資質向上 ②各種研究会に参加。実践内容・資料の報告等職員間で共有し保育実践に活用 ③架け橋期を意識した小学校交流の計画と実施、又それを活かした保育内容の検討実施 2. ①週案・加配日誌等各種事務書類の簡素化実施 ②役割分担・協力体制構築で円滑な園運営実施 ③伝達事項の可視化・掲示で確実に情報共有及び職場の5S周知と確認、促進 ④ICTの実践講座を申し込み、受講（8月）	T3
目標3	地域に開かれた幼稚園運営の充実	1. 地域の教育力を生かした保育の充実 ①土岐川観察館と交流し（年7）、自然体験活動を充実 ②地域の小学校や老人施設との交流 ③未就園児への園庭開放 ④評議員会を実施し、園運営を反映 2. 保護者の園運営及び保育理解の推進 ①ホームページ更新（月1） ②関係機関へ園だよりを配布 ③家庭教育学級への参加 ④誕生会後等を利用し、子育て相談及び座談会実施	1. ①土岐川観察館と交流（7回）を実施し、自然体験活動を充実 ②小学校1年生（2回）、老人施設（11月）、中学校3年生（11月）との交流実施 ③未就園児の園庭開放（7、9、11月）実施 ④評議員会（5、10、2月）実施し、園運営に反映 2. ①ホームページ更新（月1）実施 ②園だよりを関係機関へ配布（月1） ③家庭教育学級にて講座（11、1月）への参加 ④誕生会の後に懇談会を実施し、子育て相談及び座談会実施	T3
	要支援児保育の充実	1. 要支援児に対する支援の充実 ①個別支援計画を作成。保護者と面談し（2回）、家庭と共通理解のもとで連携した保育を実施 ②ケース検討会議を随時開催 ③関係機関（児童発達支援センター、保健センター等）と連携した支援の充実 ④専門研修（2回）、支援児研学習会（1回）に参加して資質向上の促進 2. 幼保小連絡会（1回）、就学支援シート、スマイルブック引継ぎ、中学校区教育懇談会（2回）等を活用し関係機関と連携して小学校への円滑な移行を実施	1. ①担任、担当で検討し個別支援計画を作成。保護者と面談し（2回）、共通理解のもとで連携して要支援児保育の充実 ②ケース検討会議（月1）にて共通理解し、支援内容の見直しや確認で支援の充実 ③関係機関と情報交流で保護者支援と支援の充実 ④専門研修（2回）。支援児研学習会に2名参加。職員に周知で資質向上 2. 幼保小連絡会（1回）、スマイルブック引継ぎ（4名分）、中学校区教育懇談会参加（平和中・南ヶ丘中各2回）。支援シート作成等で地域で情報共有し連携充実。小学校への円滑な移行実施	T3
目標5	危機管理体制の強化と安全安心な保育の充実	1. 危機管理体制の強化 ①防災マニュアルなど各種マニュアルの見直し ②引き取り訓練、命を守る訓練、防犯訓練（3回）及び交通安全教室（月1）の実施 ③施設遊具安全点検（月1）、ヒヤリハット記録・確認 2. 感染症等の拡大防止及び予防と怪我防止対策 ①保育室の換気、清掃、消毒を徹底し、正しい手洗いの習慣づけや予防意識を家庭へ周知 ②園医と連携し、園児の健康管理を徹底 ③玩具や備品等の環境に配慮 3. 安全安心な給食提供 ①アレルギー児への適切な対応及び環境を整備 ②誤飲誤食予防の体制の強化と意識向上	1. ①防災マニュアルなど各種マニュアルの見直し、作成 ②引き取り訓練（5月）、命を守る訓練、交通安全教室（月1）、防犯訓練（年3回）実施 ③施設、遊具安全点検（月1）、職員会にてヒヤリハットの検証及び見直し実施 2. ①保育室の換気、清掃、消毒を徹底し、手洗いの習慣づけなど予防意識を園内家庭内で周知 ②園児の健康管理徹底 ③玩具や備品等の環境に配慮 3. ①アレルギー児へ誤飲誤食がないよう、食育センター、園、家庭と献立の確認徹底 ②誤飲誤食がないよう、職員間にて体制強化	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）		

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標				達成度
目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	
目標1	健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. いきいき運動遊びを通して、運動が楽しいと感じる取り組みの充実 ①多様な運動経験ができる遊びの工夫と場の提供 ②固定遊具、体育用具、わんぱく山を有効活用した遊びの推進 ③体力テストの実施（2回）と検証 2. 3本柱から繋がる「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基にした教育活動の見直しと改善 ①一人一人の特性や教育的ニーズに対応する力を高める研修の実施 ②園内研（3回）実施し、発達段階を見通した教育内容の展開と目指す子ども像の実現	1. ①体育用具、固定遊具の活用と遊び方の工夫、各種体操により多様な動きを実践。多様な動きの経験により子ども自ら考え挑戦する姿が育成 ②研修の学びをもとに、体育用具や固定遊具、自然と関わる新たな遊び方を実践し子どもの意欲が向上 ③2回の実施結果より年齢ごとに検証。結果を踏まえ運動遊びの内容と運動、保護者へ遊びを提案 2. ①支援児対応web研修（全員参加）2回。20種延べ116回各自研修参加により保育・支援内容が充実 ②第1回、第3回で異年齢少人数クラスの保育について、第2回で支援児保育について研究討議し教育内容が充実	T3
目標2	保育事業の充実と業務改善 教諭の資質を高め、円滑な園運営	1. 少人数クラス、異年齢編成クラスで育ちあうための教育活動の工夫 ①異年齢保育活動の指導計画作成の工夫 ②少人数学級の指導計画の工夫と充実 ③なかよし遊び、全園活動の内容検討と実践の工夫 2. 「 <u>架け橋期</u> 」教育を意識した保育の充実 ①アプローチカリキュラムの見直し ②架け橋期のカリキュラムを踏まえた指導計画の作成 ③小学校との双方向連携及び職員交流、参観の実施 3. <u>ワークバランス</u> を意識した園経営 ①業務負担軽減、良好な人間関係の構築など、働きやすい職場環境の設定 ②指導要録電子化運用。ICTによる業務改善の研究	1. ①職員間で意見を出し合い活動内容を工夫、指導計画へ反映 ②少人数を活かした手厚い保育と学級の枠にこだわらない柔軟な活動の組み立て実施 ③学年会で随時検討し幼児の実態と時期にあった活動実践。全園活動の充実により育ち合う姿実現 2. ①web研修や教員向け研究資料を活用し、アプローチカリキュラムの内容を見直し ②架け橋期カリキュラムを踏まえた5歳児指導計画作成 ③コーディネーター間交流4回、担任授業参観2回実施 3. ①事務分担を見直し軽減。行事計画書様式の改善。行事に伴う準備物や製作物を削減 ②電子化運用開始。保護者対応にボターク活用	T2
目標3	令和7年度末閉園を見据えた教育活動 安心して幼稚園生活を送るための教育の工夫と家庭、地域との連携	1. 旭ヶ丘保育園との定期的な交流事業の実施 ①年間4回の交流事業実施と、実施内容の保護者周知 ②職員間の交流による幼児理解を共有 ③旭ヶ丘保育園の「公私連携幼保連携型認定こども園化（令和7年4月）」に向けた新運営事業者との調整 2. 保護者参加行事、活動を通した幼稚園教育への理解の推進 ①保護者参加型行事、活動の機会の充実 ②保護者ボランティアを活用した園経営 3. 地域住民の力を取り入れた園運営 ①各連絡会、評議員会と連携し、情報の発信と共有 ②ホームページ、わんぱく山だより（年3回）等における地域への情報発信	1. ①交流事業5回実施。写真掲示にて保護者へ様子を周知。次年度計画について旭ヶ丘保育園へ提案 ②担任及び副園長間で幼児の姿を共有 ③子ども支援課と情報共有。園見学者・新入保護者への閉園の説明・在園児保護者の相談に随時対応 2. ①誕生会、運動会、ファミリー参観は形態や内容を検討し参観及び参加対象を拡充、保護者に好評 ②園周り清掃活動、夏祭り、活動の見守りや行事のボランティア、登降園時の見守りと安全指導を実施 3. ①評議員会3回実施。まちづくり市民会議、中学校区教育懇談会参加にて連携。（ボランティアによる草刈り、やきいも、中学校との交流実施） ②毎月園の様子HP掲載。わんぱく山だより（3回）	T2
目標4	要支援児保育の充実 関係機関と連携した支援内容の充実	1. 支援内容の工夫と充実 ①要支援児にかかわる園内研の実施（1回）、支援児研究会参加（1名）、ケース検討会議（月1回）を開催 ②療育機関との交流、見学による幼児理解と支援内容の共有 ③ユニバーサルデザインを意識した活動、環境構成構成の工夫 ④関係機関と連携した保護者支援 2. 小学校へのスムーズな移行 ①小学校との交流実施 ②連絡会参加、就学支援シート、スマイルブック等を活用した幼児理解と支援の共有及び小学校との連携	1. ①園内研10月、正規職員の支援児研参加及びケース検討会を月1回及び随時開催し支援内容が向上 ②療育機関より3回、療育機関へ7回の見学により支援内容を共有。わかば専門職派遣事業を活用 ③イラストや写真を全体指示でも活用し『どの子にも分かりやすい』指導を実践 ④家庭相談員、子ども支援課と連携し保護者支援（2名）。保育所等訪問支援事業の活用（1名）。支援児転出先教育委員会と連携（1名） 2. ①コーディネーター間で情報共有。年長小学校参観実施 ②就学等支援委員会、幼保小連絡会、就学児引継ぎシート、スマイルブック引継会による連携。小学校3校と個別引継ぎ実施	T3
目標5	親育ち支援事業の充実 親育ち4・3・6・3たじみプランと連動した保護者支援	1. 園行事と連動した家庭教育学級の実施（年4回） 2. 親子ふれあい遊び（体力アップ活動）の推進 ①参観日、運動会等、親子で体を動かす活動の実施 ②園だより、クラス便りにて親子ふれあい遊びの提案 3. 食育活動及び読書活動の推進 ①親子収穫体験、給食試食会の実施 ②親子絵本貸し出しの実施と絵本ボランティアの活用 4. 基本的生活習慣の定着、安全指導の実施 ①『たじっこチャレンジ』を活用した生活習慣作りの啓発 ②毎日の挨拶運動及び『挨拶で絆の日』の実施	1. 家庭教育学級4回と防火教室、防犯教室実施 2. ①参観日で親子ふれあい・運動遊びを実践。運動会で保護者参加競技拡充 ②園だより8回、クラス便り4回で遊び掲載 3. ①冬野菜2種親子で収穫。給食試食会と栄養士講話、セレクト給食実施。子どもの食について保護者理解増進 ②『ファミリー絵本の日』を毎月設け、保護者へ絵本の貸出を実施。長期休業日期間は好評 4. ①7月と2月、2回の評価から生活習慣の定着を検証。結果を学級懇談会で保護者へ周知 ②まちづくり市民会議と連携し『挨拶で絆の日』2回実施。毎日の挨拶運動で挨拶の定着児増加	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標

目標		実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1	健全な心と体を育む保育の充実	1. 好奇心や意欲を引き出す遊びの充実 ①季節・環境を生かした体験活動や遊びを計画的に実施し、意欲向上と心の育成（自然・体験活動・食育活動・造形活動・世代間交流） ②資質・能力の3つの柱から繋がる幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識し発達に合わせた取組を推進 2. 運動が楽しいと感じる取組を充実 ①体力向上に向け「体力アッププラン」を作成し発達に即した取組を毎日実施 ②思わず体を動かしたくなる環境構成の工夫で、どの子も楽しめる運動遊びを計画し実施 ③体力テストを実施し、効果を検証	1. ①月2回の学年会や日々の振り返りで子どもの状況や研究会・外部からの体験活動で得た知識を職員間で共有。計画的に実施し、子どもの意欲向上 ②資質・能力と10の姿を意識した取組を園内研で確認。年齢に合わせた援助や育てたい力を共有し保育に反映 2. ①体力アッププランを作成し、年齢に合わせた意識的な取組を毎日実施 ②運動部会や外部講師から学んだ環境構成を職員間で共有し、年齢に合わせた運動遊びを随時検討楽しく取組める環境構成（なりきり遊び）運動遊びを推進し、子どもの意欲向上 ③体力テストを実施し現状を把握。効果を確認	T2
	保育事業の充実と業務改善	1. 保育士の資質向上 ①保育力の向上を図るため、外部講師による園内研修を実施し（3回）、3つの柱からつながる10の姿を意識した討議を実施しPDCAサイクルを実施 ②各種研究会での学びを職員間で共有し、保育に活用 ③園内研修を実施し資質向上（運動遊び・危機管理・こども園・支援を要する子の理解） ④小学校と連携し架け橋を意識した取組を実施 2. 計画的な取組と業務改善 ①各園情報（運動会・発表会・誕生会等）を共有し活用 ②日常的かつ意識的な業務改善の推進。ICTによる業務改善の研究 ③年間計画を作成し、業務の役割分担し円滑に進行	1. ①外部講師による園内研修を3回実施。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に立ち振り返り討議し課題や成果を確認 ②各種研究会・研修の学びを職員共有し活用 ③資質向上に向け各種研修に参加（運動遊び・危機管理・支援を要する子の理解）危機管理と支援の研修についてはオンライン研修を活用 ④小学校教諭と担任が参観・交流会を実施。小学校長からの就学に向けての講話を傾聴し連携 2. ①各園の情報をネットに整理し共有 ②倉庫の整理・備品を確認。ペーパーレスを推進。今後の行事削減。業務削減に向けて職員間で検討 ③行事・夏休み等は役割分担し業務を推進	T3
目標3	笠原こども園の開園に向けた準備	1. 笠原幼・保の統合及び笠原認定こども園の推進 ①笠原幼保で連携し交流事業の年間計画を作成。計画的に交流会を実施し、スムーズな移行を推進 ②認定こども園に向けて「認定こども園教育・保育要領」について学習しスムーズな移行に向けた準備を開始 ③小学校工事の状況を把握し、安全な環境を確保 ④施設統合の進捗状況を随時保護者、地域へ発信し、理解を促進 2. 地域性を生かした交流	1. ①幼保で交流事業を計画的に実施（5回）双方の職員間で連携強化しスムーズな移行へ邁進 ②こども園に向けての育友会調整会議（3回）・笠原こども園運営会議（3回）を実施。スムーズな移行に向け検討 ③小学校工事会社と連携。状況を把握し安全確保 ④施設統合の進捗状況について、必要に応じ発信 2. ①幼保小中一貫教育について連携し実施。はじまりの会に参加し職員間で共有。理念を通信を通して保護者へ発信。家庭と連携し推進 ②評議員会（3回）を予定通り実施。指導助言を受け、今後の園運営に反映	T2
	円滑な移行準備、工事期間中の安全な保育の実現	1. 地域性を生かした交流 ①笠原幼保小中一貫教育の理念を踏まえた教育の充実 ②評議員会（年3回実施）を通じた園活動の周知と理解促進		
目標4	親支援の充実	1. 保護者支援の充実 ①園日より懇談会で早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知 ②個別懇談（年3回）、子育てサロンや送迎時に家庭の状況を把握。保護者をサポートし子育て力を向上 ③各種通信を通して保護者への保育内容の理解、協力を促進し、基本的生活習慣や遊びの大切さを啓発 ④支援児に対する個別支援計画を作成。保護者との個別懇談（年2回以上）で家庭と連携した保育を実施 2. 運動遊びの充実、情報提供及び推進 ①運動遊びを通じた体力向上の重要性を保護者へ周知 ②家庭内で取り組める運動遊びの事例紹介の推進	1. ①園日より、クラス日より、かさはらっこだより、学力向上チェックシートを通して、早寝・早起き・朝ごはんの大切さを周知し保護者へ啓発 ②個別懇談、子育てサロンを実施し保護者と話をする機会を設定。状況に合わせ保護者をサポート ③通信・行事写真の掲示にて保護者へ情報発信 ④支援児8名の個別支援計画を作成。新たに発達相談につなげた児2名。家庭と個別懇談を実施し連携した保育を実施 2. ①各種通信を通して運動遊びの大切さと園の取組の様子を保護者へ周知 ②家庭でできる運動遊びを園日よりで紹介し啓発。一貫教育の日に親子で実施	T3
	安全な保育の実施	1. 危機管理体制の強化 ①地震や自然災害における対応について随時検討 ②感染症予防対策の徹底と状況に応じた対応を実施 ③防犯訓練及び交通指導等の定期実施 ④施設・遊具点検（月1回）の実施 ⑤笠原校区幼保小の引取訓練の実施と課題整理 ⑥職員間でのヒヤリハット事例の共有、共通理解と防止に向けた環境整備の実施 ⑦保育室の環境整備・点検を毎週実施 2. 安全安心な給食の提供 ①保護者と連携しアレルギー児の誤食予防体制を強化 ②衛生・食品管理の徹底と安全・安心な給食提供	1. ①災害時の対応は園内研修を実施し対応を検討 ②状況に応じ適切な対応を随時検討 ③予定通り実施し、その都度課題整理 ④施設点検、遊具安全点検を定期実施（月1回） ⑤笠原校区引取訓練を実施し課題確認 ⑥朝礼や職員会にてヒヤリハット事例を共有。防止に向けた対応・対策を職員で共有 ⑦保育室の環境整備・点検を予定通り実施 2. ①アレルギー児2名に対し、保護者・栄養士と面談実施。朝礼にて献立を確認し、マニュアルに沿った対応を実施 ②毎日の清掃を実施。夏場の給食提供には特に留意	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等		（目標設定）	（成果）	

令和6年度組織目標兼管理職個人目標管理シート

組織目標兼管理職個人目標

組織目標兼管理職個人目標		達成度	
目標	実施する業務の内容	成果（評定時に記入）	達成度
目標1 健全な心と体を育む保育の充実 「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」を目指した保育の充実	1. 一人一人の発達に合わせた教育実践 ①個別要録やエビデンス記録を作成。定期的に成長・発達を検証し教育計画に反映 ②降園時の伝達や通信、園メールなどで児の姿を保護者と共有、教育の重点について啓発 ③園児の自己肯定感向上のため、いきいき遊び、いきいき運動遊びを充実 2. 教育の充実に向けた統括園長としての取組実施 ①育友会と連携、保護者が参加可能な行事の充実 ②統括園長として小学校との職員相互派遣、教育内容の交流。及び園教育の検証、改善 ③交流センターなど関係施設との連携により、地域に根ざした園運営を実施	1. ①毎月個別事例検討会を開催、方針を保護者と共有、実践に反映し教育が充実 ②毎日園長・副園長が全保護者に対応。また週2回程度メールにて情報を提供、円滑に園運営を遂行 ③いきいき活動を定期的に検証、東濃地区公立幼稚園・こども園研究発表大会（以下研究大会）にて成果を発表 2. ①育友会本部会議に毎回参加、試食会など家庭教育学級（3回）を計画、実施。連携を強化 ②公立幼稚園全園で指導主事による指導を依頼。教育研究所と連携し研究大会を開催 ③関係施設の運営委員会、行事に参加。共栄・小泉保育園、交流センターとの園児交流会実施	T2
目標2 保育事業の充実と業務改善 研究発表大会に向けた教育活動の充実	1. 研究発表大会に向けた教育計画の検証、実践 ①10月の発表を見通した年間教育計画を策定 ②職員の資質向上のため、教育研究所指導主事による定期的な指導を実施 ③推進研・課題研と連携した教育活動の推進 ④研究発表の主題予定である異年齢活動の充実 2. 保育・教育の質向上に向けた業務改善の継続実施 ①職員年休取得率向上のため、年間計画を見通しながら適切に人員を配置 ②今年度より要録を電子化。園内にて学習会を実施 ③業務の偏りが無いよう、職員の業務量を把握 ④負担軽減のため、行事や地域交流の日程や内容を再検証、適宜改善	1. ①策定した年間計画を基本として教育を実践。研究大会にて成果を発表 ②教育研究所、東濃教育事務所の各指導主事による指導のもと活動を検証。研究大会にて成果を発表 ③多治見地区公立幼稚園研究推進委員会（6回）に講師として参加、自園の教育活動に反映 ④異年齢活動を継続実践、検証、研究大会で発表 2. ①年次有給休暇の平均取得日数は5.6日（12月末）となり、適切な人員配置により、計画通り取得 ②ICTを含めた業務の電子化について定期的検証 ③必要に応じ職員面談を行うなど、状況を随時確認、適切な業務振り分けを実施 ④行事、会議など合理的な実践により負担軽減	T2
目標3 要支援児・医療的ケア児保育・教育の充実 連携強化による安全なケアの実施	1. 安全な医療的ケアの提供 ①保護者との連携強化による確実な情報の伝達 ②医療的ケア児の状況により、随時保護者面談を実施、必要に応じて主治医訪問を依頼 ③全園児が共に育ちあえる教育計画の作成 ④実施したケア記録を作成。降園時、保護者と確認 2. インクルーシブ教育の充実 ①支援コーディネーターを中心とした、支援児教育の体制構築 ②児童発達支援センターとの連携による支援児教育の充実 ③インクルーシブ教育充実のための教育活動を設定 ④定期的にケース会議を実施、担任と支援児担当の連携を強化	1. ①登降園時、体調及び医療的ケアの実施状況について保護者に伝達、確認。安全にケアを提供 ②医療的ケア内容の変更時、保護者面談及び主治医訪問を実施、適切に発達支援委員会代表医師に報告 ③全園児がかかわりあうことができるよう活動計画を作成し実践。全園児が活動意義を共有 ④医療的ケア実施記録を毎日作成、保護者と共有 2. ①園長・副園長を交え面談。支援策の共有により児の成長に貢献。必要に応じ療育を勧奨 ②療育施設主催の個別事例検討会に職員を派遣、支援策を共有、支援児教育が充実 ③園全体での活動推進にて育ちあう環境が充実 ④個別記録の共有により、連携して支援を提供	T2
目標4 公立幼保の事業計画立案 統括園長として行政と園の調整	1. 少子化を見据えた今後の幼保のあり方を検証 ①あり方検討委員会にて、明和幼稚園の廃園に向けた教育内容の検証、指導 ②明和幼稚園の再利用について関係機関と連携、協議 ③笠原こども園開園に向け、各種様式作成など教育・保育計画の検証、作成 2. 幼保職員定数の検証 ①国の施策などを踏まえ、安全な運営が可能である適正配置人数を設定 ②職員採用試験の受験者数増加のため、養成大学との連携を強化 ③人員削減を見据えた事業内容の検証	1. ①公立園長会及び幼保のあり方検討プロジェクト会議にて方針を検討。必要に応じ園長の意見を集約し幼保で協議 ②現在検討中、次年度継続して審議 ③公立園長会で必要文書、実践内容を検討すると共に、各職員に業務の振り分けを実施 2. ①国の配置基準変更に合わせて、次年度以降の配置を人事課・子ども支援課と検討 ②養成大学にて現在の公立園の採用状況を周知、東濃5市担当者と情報を交流 ③手書き文書の必要性について検証、内容を精査し変更及び削減。各園の備品情報をキャビネットにて共有することで負担を削減	T3
目標5 危機管理体制の強化と安全な教育の実践 安全教育の実施のための環境整備	1. 危機管理体制の強化 ①施設、遊具の安全点検を毎月実施 ②避難訓練、交通指導（毎月）、防犯訓練（年4回）を実施。また医療的ケア児用の防災計画を立案、安全対策として、消防署との連携を強化 ③消防職員によるAED講習、危機管理講習を実施 2. 安全な衛生環境の構築 ①薬剤師と連携し環境整備計画を立案（清掃、換気、消毒、騒音、水質） ②園医の指示の下、園児の健康管理を随時実施 ③うがいや手洗いの習慣づけ、基本的生活習慣の確立など、家庭に向け予防策啓発のため正確な情報を発信 ④学校感染症など制度を随時確認。適切な情報を共有	1. ①毎月施設の安全点検を全職員にて実施 ②消防士による指導など、計画通り各種訓練を実施の他、企画防災課と連携し、地震体験車を招き大地震を想定した訓練を実施。医療的ケア児については、専用の安全マニュアルを作成 ③看護師による医療的ケアの緊急対応訓練実施 2. ①基準通り各種検査を実施。異常、改善点無し ②各種健診にて医師による管理指導を実施。内容を対象保護者に周知するとともに、就学先と共有 ③園便りや通信などで、定期的に啓発 ④公立園長会などで感染症対応について随時確認、発生時は即時メールにて保護者に周知、感染拡大を防止	T3
b 独自目標加算 （任意設定） 例：自主研究グループ活動などの自己研鑽、職員提案活動、施策の紹介・普及活動 等	（目標設定） 東濃男性保育士会の組織運営及び保育士養成大学と連携し学習会などを開催。地域の男性保育士の資質向上及び地域における保育情勢を交流	（成果） ・男性保育士学習会を11月に開催。音楽研修及び大学教授による講話。また他市の情勢を交流。大学に対し保育学生への採用情報周知を依頼 ・療育センター職員や児童館職員も含め、幼児にかかわる男性に対し、必要な知識と意識について講話を実施（20名程度参加）	